

第4回「教育改革10年を未来につなげる会」における 大崎教育長しめくくりのあいさつ

平成18年11月22日（水）
於：高新文化ホール

たいへんお疲れ様でした。一言お礼を申し上げます。

委員の皆様には、9月7日の第1回会議から、4回にわたりまして熱心にご議論いただき、まことに有り難うございました。また、座長団の皆様には、半田座長さんを中心に、度々座長団会議ももって頂きまして、会議のとりまとめに心を砕いていただきましたこと、まことに有り難うございました。

土佐の教育改革は、ご承知のとおり、10年にわたる膨大な県民の皆様との共同作業で行われましたので、これを限られた時間の中で全て検証・総括し、未来につなげる方向性を取りまとめることは、大変厳しい困難な作業でございました。大変委員の皆様、座長団の皆様にご苦勞をおかけしましたこと、心より感謝申し上げます。

先ほどおまとめいただきましたご提言では、「土佐の教育改革の取組の方向性は妥当なものであった。」との一定のご評価をいただきました。少し、私も肩の荷の降りた感じがします。この10年間の改革の取組が無駄ではなかったということで、勇気づけられる思いをいたしました。

また、改革10年の財産を受け継ぎながら、中学校問題など、残された課題の根本的な解決に向けて、焦点を絞り込んで、今後の私たちの取組に大きな示唆を与えていただける提言であると思います。教育を県民のものに。子どもたちのものに。」という視点で、県民の皆様に対する大きなメッセージになるものと思います。

今後、教育行政がしっかりとコーディネート機能を果たしながら、学校・家庭・地域の連携をさらに強め、幅広い県民の皆様の力を結集して、21世紀をたくましく生き抜いていける子どもたちを育てる高知県の教育の確立のために、手を携えて取り組んでまいりたいと思います。今後とものご協力をお願いいたします。

県教育委員会では、このご提言を受けまして、年内には対応方針を取りまとめたいと考えています。また、現在作業中の来年度の予算編成にもできる

限り反映させていきたいと考えております。

また、このご提言の趣旨を広く県民の皆様を受け止めていただくために、2月には高知、安芸、四万十の各市で、土佐の教育改革フォーラムを開催しまして、ご提言の報告と新たな教育的な風土づくりに向けた仕事をしてまいりたいと思っています。

最後に、この場をお借りしまして、これまで土佐の教育改革を支えて下さいました県民の皆様と、改革の中心となってお尽力いただきました教育関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げますとともに、委員の皆様の熱心なご審議と座長団の皆様のご労苦に改めて感謝申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

本当に有り難うございました。